

## 第6章 ビジネスサポート

### データセンター

## 国内でも各社サービスがスタート 各種インターネットサービス充実の基盤となるか

### データセンター誕生の背景

米国では1996年前後からインターネット利用が活発になり、ネット上でのサービスや売買も盛んになっていった。これに伴い、サーバーはネット上のビジネスになくなくてはならないものとなっていった。

しかしインターネットビジネス事業者にとってアクセス環境の良さを維持することは大きな負担だった。そこで24時間365日無停電でサーバーを運用したり、専用線を常に最適な状況に維持・拡張したり、エンジニアの確保・教育といったことへの需要に対してデータセンターは誕生した。

もちろんデータセンターを使う最大のメリットはこれだけではない。もっとも本質にあるのは、インターネットビジネスの厳しい競争環境の中で、本業の差別化にすべての経営資源を投入できることにある。データセンターに限らず、本業に関わること以外はすべて外部を使うことで、経営資源を集中させられるのだ。

### データセンターの分類

国内でもデータセンターは多く出てきたが、提供サービスによって以下のように分類できる。

#### ① 非キャリア系データセンター

キャリア（電気通信事業者）やベンダー（メーカーあるいは販売会社）を自由に選べる。また、大手のデータセンターではピアリング（ネットワーク同士の相互接続）数が多く、接続環境もいいので、顧客企業が目的に添った機能を選択しやすい。顧客企業にとっては、最高のインターネットビジネスサイトを実現できる場だろう。

#### ② キャリア系データセンター

通信キャリアが自社ユーザーの囲い込

みを主眼として開設するデータセンター。キャリア選択などの自由度は低いが、一般的にサービスメニューは豊富。

#### ③ 機器関連会社系データセンター

サーバーや機器選択の自由度は低いが、サービスメニューは豊富で、丸抱え的なサービスを一般的に提供する。

また、別の区分として以下のようにも分類できる。

#### A. 都市型データセンター

都市内部に立地するデータセンター。本格的なインターネットビジネス事業者は数か月単位でサーバーを増設するケースが多いため、データセンターへ出向く頻度を考えると、都市型データセンターの方が利便性が高い。また、接続環境重視のデータセンターにとっては、地方に置くより回線を引くコストを抑えられるというメリットがある。

#### B. 郊外型データセンター

サーバー増設を頻繁には行わず、接続性が劣っても安いサービス（土地が安いのでサービス価格は一般的に安くなる）を望むインターネットビジネス事業者向き。

このようにデータセンターは各種あるが、ただデータセンターにサーバーを預ければよいのではなく、データセンターの特徴をとらえ、ビジネス事業者側が適切なデータセンターを選択することが重要だ。

### 各種サービスの競争を促す

データセンターが与える影響はいくつか考えられるが、たとえば、強固なバックボーン（基幹ネットワーク）のデータセンターとセットになれば、今後数多くの動画などの大きなデータを配信できるマルチメディア系アプリケーションが出現し、社会は一変するだろう。

また、ASP（P.138ページ参照）もデータセンター上でサービスを展開することにより、より本格化するであろうし、常に回線問題に頭を悩ませてきたISPもNOC（ネットワークを管理する場所や施設）部分のデータセンター内での運用により、通信品質を飛躍的に改善できる。

このように、通信環境、サーバー運営の問題をデータセンターが引き受けることで、ISP、ASP、CSP<sup>注1</sup>といった各種サービスの競争が本格化し、サービスの改善、事業者の淘汰が進む。国内でもデータセンターが充実してくれば、利用者にとって使い勝手のよい本格的なインターネット時代がやってくることだろう。

（森脇完二 アバヴネットジャパン株式会社代表取締役）

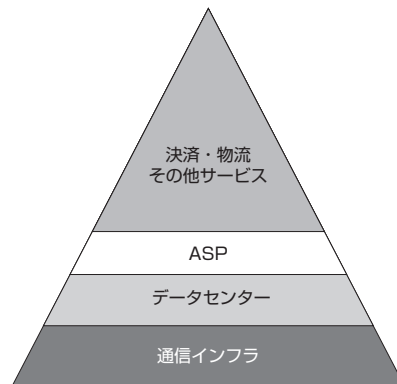


図1 企業向けサービスのピラミッド構造

注1 コンポーネント・サービス・プロバイダーの略。複雑なシステムの一部機能だけを提供するサービスで、たとえば、電子メールサーバーのアウトソーシングや検索サービス、認証サービスなどが挙げられる。



## [インターネット白書 ARCHIVES] ご利用上の注意

このファイルは、株式会社インプレスR&Dが1996年～2012年までに発行したインターネットの年鑑『インターネット白書』の誌面をPDF化し、「インターネット白書 ARCHIVES」として以下のウェブサイトで公開しているものです。

<http://IWParchives.jp/>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、データ、URL、名称など)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真・図の作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は掲載されていない場合があります。
- このファイルの内容を改変したり、商用目的として再利用したりすることはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用される際は、出典として媒体名および年号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレスR&D)などの情報をご明記ください。
- オリジナルの発行時点では、株式会社インプレスR&D(初期は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めました。すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接および間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

お問い合わせ先

株式会社インプレス R&D

✉ [iwp-info@impress.co.jp](mailto:iwp-info@impress.co.jp)